

Noto PLUS

「行政」「人」「地域の魅力・価値」を「プラス」でつなぐ情報誌

広報のと No. 86
2012.4.1

4



広報のと 第86号

平成24年4月1日発行

発行・能登町 編集・広報情報推進課
〒927-0492 石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字1-9-7番地1

☎：0768-62-11000(地)
能登町URL：http://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp

女人禁制の結界山。
男たちの祈りが
春の訪れを告げる。



【写真】3月2日に行われた神道地区の春祭り「石仏山祭」。地区の男たちがオヤマにのぼり、五穀豊穡を祈りました。

ぶらり里山
ゆらり里海

第4回 『土に根差す』



『過疎高齢化』という呪縛

コ

ケの先生は神谷さん、ゼンマイの先生は谷屋さん、私はもらって食べるだけ。私は話を聞くだけ(一同笑)。それなら野菜の

先生は？と聞くと「みんな先生」とおぼあちゃん全員が誇らしげに答えました。自分の畑の野菜を母や姑から教わった料理にして、持ち寄ってみんなで昼食を楽しまします。帰りに残りを分け合えば豪華な夕食ができてしまうとか！しかもお金はかかりません。「辛抱もしたけどその分、長生きしとりん。小学校ん時から一緒のモンに囲まれてくえ、今は幸せやわ」。

都市にない農村の絶対的強み。それは「土に根差した暮らし」です。おぼあちゃんたちのたくましい哲学も土に根差しています。土は循環し再生する命であり大地であり地球であり能登です。

「過疎化」「少子高齢化」「限界集落」は、全国の農村をどこもかしこも十把一絡げにして夢も希望も消してしまふ呪文です。統計学的事実かもしれないが農村の真実ではありません。都市化が農村への依存によってもたらされたことの裏返しで、都市集中と表裏一体の課題です。しかし、農村側が「カソーレカ」を無批判で受け入れて自らを語った途端、ブルドーザーと化して真実は埋められ、閉塞感が漂い、人口減少の未来予測に人々は立ちすくんでしまいます。

それよりも「ありのまま・あるがままの今ここ」を自らの言葉で語りませんか。能登の真実は人の数だけある暮らしに宿ります。家や田畑を守るお年寄りが、土からできたものを供して分かたつ土の暮らし・土の哲学は、根無し草の都会人が必死になって探している「懐かしい未来」幸せ・共有・つながりの再構築への模範です。時代は今、「まわれ右」をしているのです。

写真・文 山崎昭宏



【PROFILE】 Yamazaki Akihiro
昭和42年埼玉県生まれ。平成21年能登町笹川に移住。平成4年に初めて富来を訪れる。彼女(妻)の実家でいきなり家族的な親戚づきあいの洗礼を受け、たちまち能登に魅了された。"帰省"の度に能登を巡り、富来の親戚よりも能登に詳しくと評された。
ブログ：ゆらりぶらり http://blog.livedoor.jp/yurairurari/



「広報のと」4月号の印刷費は一部当たり26円です。